

いっぱん質問



行政の考えを問う

新井 高雄 議員

健康被害を拡大しないための対策が必要

.....13P

田中 義幸 議員

窓口業務民営化でのトラブル対応はどうする

.....13P

中村 春夫 議員

県の責任をどう考える

.....14P

今回の一般質問は、平成29年5月28日に発生しました、産業廃棄物中間処理施設火災という緊急事態であり、執行部は消火活動を最優先する体制でした。(平成29年6月23日鎮火)
議会としては、6月定例会で質さなければならない事項のみ一般質問を行うことで協力しました。

紙面の都合により、いっぱん質問の内容を680字以内でまとめています。

田中 義幸 議員



問 窓口業務民営化でのトラブル対応はどうする

答 案件を引き継ぎ対応する

産廃場火災という緊急非常時であり、執行部に配慮して、一括質問一括回答を願う。

質 ①民間委託の効果額はどのくらいか。
②足立区の業務委託は、なぜ偽装請負か。
③茅ヶ崎市の業務委託はどうなった。
④請負業者と職員を仕切れるのか。
⑤諸問題が発生した時の対応をどうするか。
⑥熟練したフロアマネージャーの配置が必要

ではないか。
⑦決裁権限を持つ独立行政法人方式にすれば、市の職員は必要なく最後は市長のみになる。

草野市民課長 ①年間200万円だ。
②労働局は、受託社員が区職員に判断を仰いでいたことが、事実上の指揮命令にあたるかと判断した。
③茅ヶ崎市は、民間委託の政策決定をしているが、他団体の偽装請負問題が生じているこ

とから、見直しをしている。
④現状は独立したスペース確保が困難だ。窓口カウンターの改修と、キャビネット等を活用し仕切りを考えている。
⑤トラブルは、受託会社で対応してもらおう。市職員の判断が必要な場合は、その案件を引き継ぎ対応する。
⑥新庁舎では、フロアマネージャーの配置を検討したい。

赤間市長 ⑦独立行政法人制度には、予算編成・条例制定・政策企画立案などは対象外であり、そうはならない。庁舎建設予定地の坑内予想と岩崎断層の説明

経済産業局の「坑内実測図」と「鉱区図」によれば、旧稲築高校跡地下には坑道がない。理由は、岩崎断層により炭層がずれ落ちたからと推測する。

結論 庁舎建設予定地は、岩崎断層上である。
私見 岩崎断層は活断



岩崎断層

層ではないとの判断だ。しかし、一度は動いている。今後全く動かないのか、は疑問だ。

新井 高雄 議員



問 健康被害を拡大しないための対策が必要

答 対策は検討する。県と事業者にも要望をする

質 健康被害対策について
さる5月28日、発生した産廃場火災事故はいまなお、おさまっていない状況にある。この火災事故と直接因果関係のあるなしは別として、市が発表した体調不良者は、6月13日現在、332人にのぼっている。

今後、健康被害を拡大しないための対策が必要であり、子どもたちを中心にせめてこの半年間、臨時的、応急

的に健康診断を市が実施することを要求する。

赤間市長 健康被害対策は検討する。ただ（火災事故とその被害の）原因者は、県と事業者だ。したがって、県と事業者に対応と要望をする形になると思う。

環境汚染対策について
質 火災事故による空気汚染、土壌汚染、水質汚染が健康に及ぼすものがあるかどうか調査することが必要だ。

水質汚染で言えば、消火作業によって流れ出した真つ黒な水は山田川に流れ込む地形であり、下流の下山田、稲築、飯塚方面の水田や飲料水に影響はないのか。汚染水は拡散を防止するため、新たに貯水池をつくるか、あるいは、ドラム缶に貯留し処理した後に放流するべきではないのか。

安陪総務課長 ダイオキシンは、環境基準をオーバーしているがた

だちに健康被害を与えないものではない。消火作業によって流れ出した水は、県に流出防止策を求めている。

大気、土壌、河川水、地下水の調査結果を検証したい。

質 現場での消火作業員には、休憩場所を提供すべきだ。

秋吉総合調整監 今後、現場の環境整備は十分整える。



流れ出た汚水



火災現場状況(5月29日)

中村 春夫 議員



問 県の責任をどう考える

答 原因者は、指導・監督責任を履行しなかった県と事業者である

質 5月28日に発生した百々谷中間処理産廃場の火災について、管理監督権を持っている福岡県の責任をどう考えるか。

赤間市長 あの様な火災となった原因者は、指導・監督責任を履行しなかった福岡県と事業者である。今後は、住民の健康被害・環境被害対応などについて、県に要望、陳情、要請等を講じていく。熊ヶ畑地区の不法投棄

質 その後の進展はどうなっているのか。

秋吉総合調整監 県より、3月10日現地6箇所、3月10日現地6箇所の溶出検査結果は、2箇所で鉛が検出された。フレコンバックの溶出検査1箇所ではカドミウム、鉛、セレンを検出した。いずれも微量で埋立基準値未満であった。また、4月に6箇所の水質検査を行い、全て環境基準に適合していたとの報告を受けている。今後

引き続きモニタリングを県に強く要請していきたい。

個人宅内にある廃タイヤは、6月中に一時移動することとなった。

百々谷最終処分場

質 覆土を踏まえた地元住民との協議は進んでいるのか。

総合調整監 県に確認したところ、現時点では協議は進んでいないとの報告を受けている。熊ヶ畑最終処分場

4月以降、現地立ち入り調査したのか。

総合調整監 現地に立ち入り調査等を予定していたが、火災発生のため、まだ実施していない。

質 何か新たな情報はないのか。

総合調整監 県より、3月21日に報告書が届き、27年度の搬入量は1万2981m³であった。また、日報等は請求中であるため、届き次第報告する。



火災現場状況(5月28日)

委員会の動き

議会運営委員会

- 4月26日 臨時会の日程等について
- 6月2日 3月定例会の日程等について
- 6月23日 定例会最終日の日程等について

新庁舎に関する調査特別委員会

- 6月20日 庁舎建設に関する進捗状況など

広報編集特別委員会

- 3月23日 議会広報編集について
- 4月12日 議会広報編集について
- 4月17日 議会広報編集について
- 4月20日 議会広報編集について
- 5月22日 議会広報編集について